へ13
4328
3

N13
4328
3

〈2002-235〉

厚化粧萬年
島田春水作
國貞畫 五編

からし鮭と猫と組合の甚所
百ものぐるりだらりしはする

這へ人も知る古人の附合。予へまず百物語での戯をへしてえざれども。かの百筋ある燈心を。一筋づゝに消せしとて陽氣次第に衰へて。陰分盛になる友に怖しくの心から批援も轆轤首と見へ目籠も鬼の顔とやみゆべき。其百といふ文字に困し例の百女が物語。婦女子の伽に編ましあまへ。理合に惱まぬ非語怪談那前によゐらゐ猫と組合ふ立廻り果を目籠の目を取つゝく。批援の鼻へあつけれ。夏まやゝるゝんと將むゝゝ先ず五編の端書を述ぶ。

明治三庚午稔孟春
為永春水記

元の和歌
町の唄女
三之吉
十若
小僧
九郎吉

新
浮
百

新
浪

さけ
みりん
文
百

本家
實母散
さんぜんさんごやへちのみち一切の妙薬

[illegible]

中橋南傳馬町一丁目東がハ
千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻
四編ヨリ九編迄
山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知
當春賣出 [illegible] 柳蔭月の朝妻 [illegible]

山々亭有人作
錦朝樓芳幾画

つゞき 端四郎は [illegible]
ものさ [illegible] 八月の [illegible]

五篇下

三
火の用心

九
八

百
五

八町
殺生
禁十

明治四年辛未春陽開板標目

厚化粧萬年嶋田 八編 九編 十編 春水作 國貞画	室町源氏胡蝶巻 二十九編 三十編 三十一編 三十二編 種彦作 國貞画	鼠祠通夜譚 八編 九編 種彦作 國貞画	童謡妙々車 廿四編 廿五編 種彦作 國貞画	薄俤幼日記 二十編 二十一編 春水作 國貞画	[illegible]時葛飾譚 十一編 十二編 種彦作 國貞画
新局九尾傳 十二編 十三編 十四編 春水作 國貞画	筆海四國聞書 十三編 十四編 種彦作 國貞画	明烏墨画廼補稿 十六編 十七編 種彦作 國貞画	花封莟玉章 十編 大尾 種彦作 國貞画	八犬傳犬の双紙 二十四編 二十五編 [illegible]作 國政画	

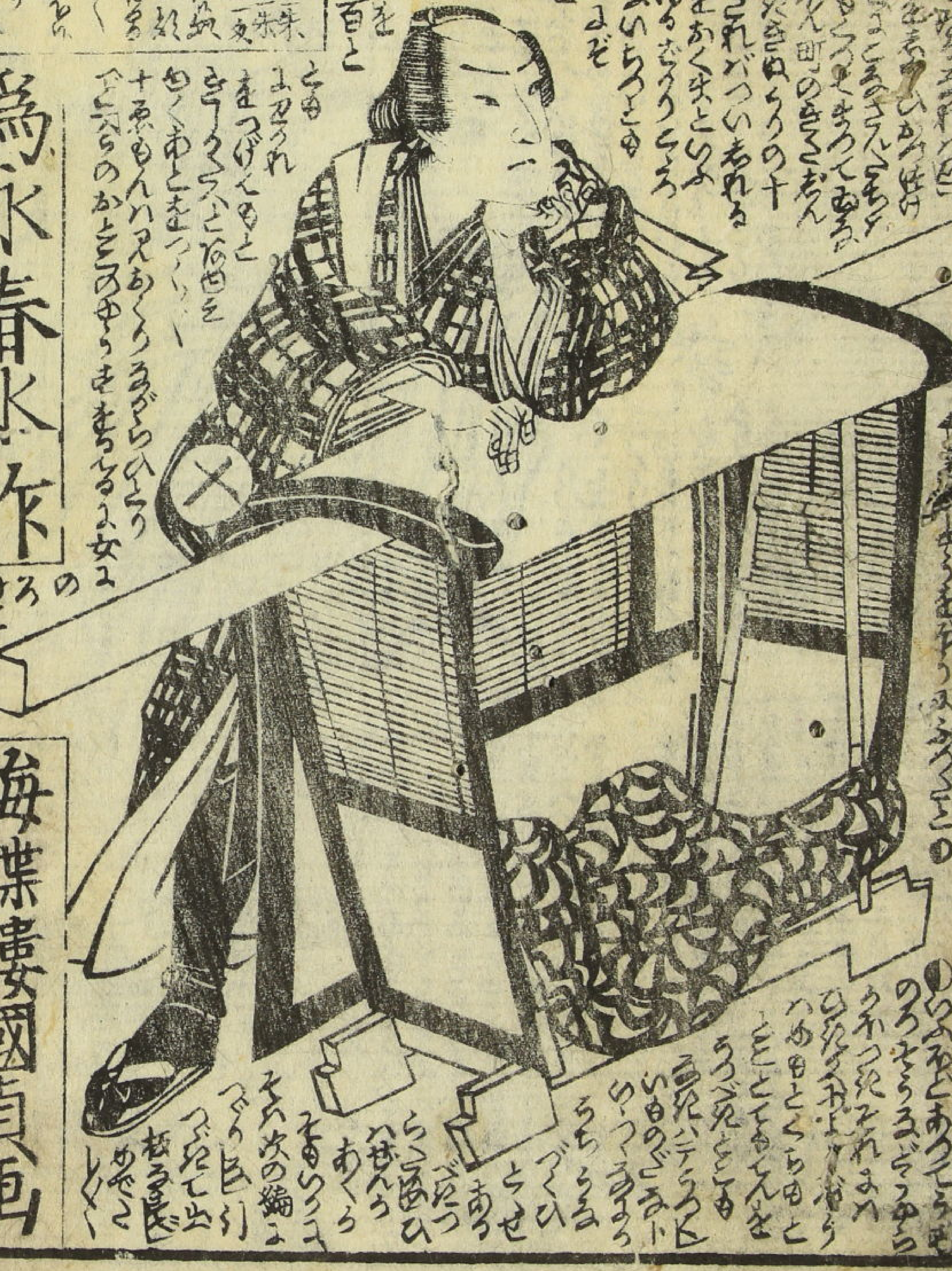
南傳馬町壹丁目
蔦屋吉藏

朝鮮 牛肉丸 大包金二朱 中包金一朱 小包銀一匁

梁崎氏製

爲永春水作

梅蝶樓國貞画



厚化粧
當年島田
六編上

先青陽の春のはじめ色香妙なる梅が枝の且咲初を諸人の心や春にうかれぬらん又は桜の花盛り白雲とのみ見えし野の千本の花にうかれしと那謡曲に諷へるも實宜なれや春来ぬれば堕落とふ例の持病の花鳥の音に引出されて机に對えど何とやら上の空のみ詠め勝なるに書房の使来りて急ぎ書けんと促さるゝに今はえやうき消えゆらみの失ふて筆の運びも乱拍子に先端がりの席文から面も冠らずて野面を誌ぞ

明治第三庚午孟春

為永春水

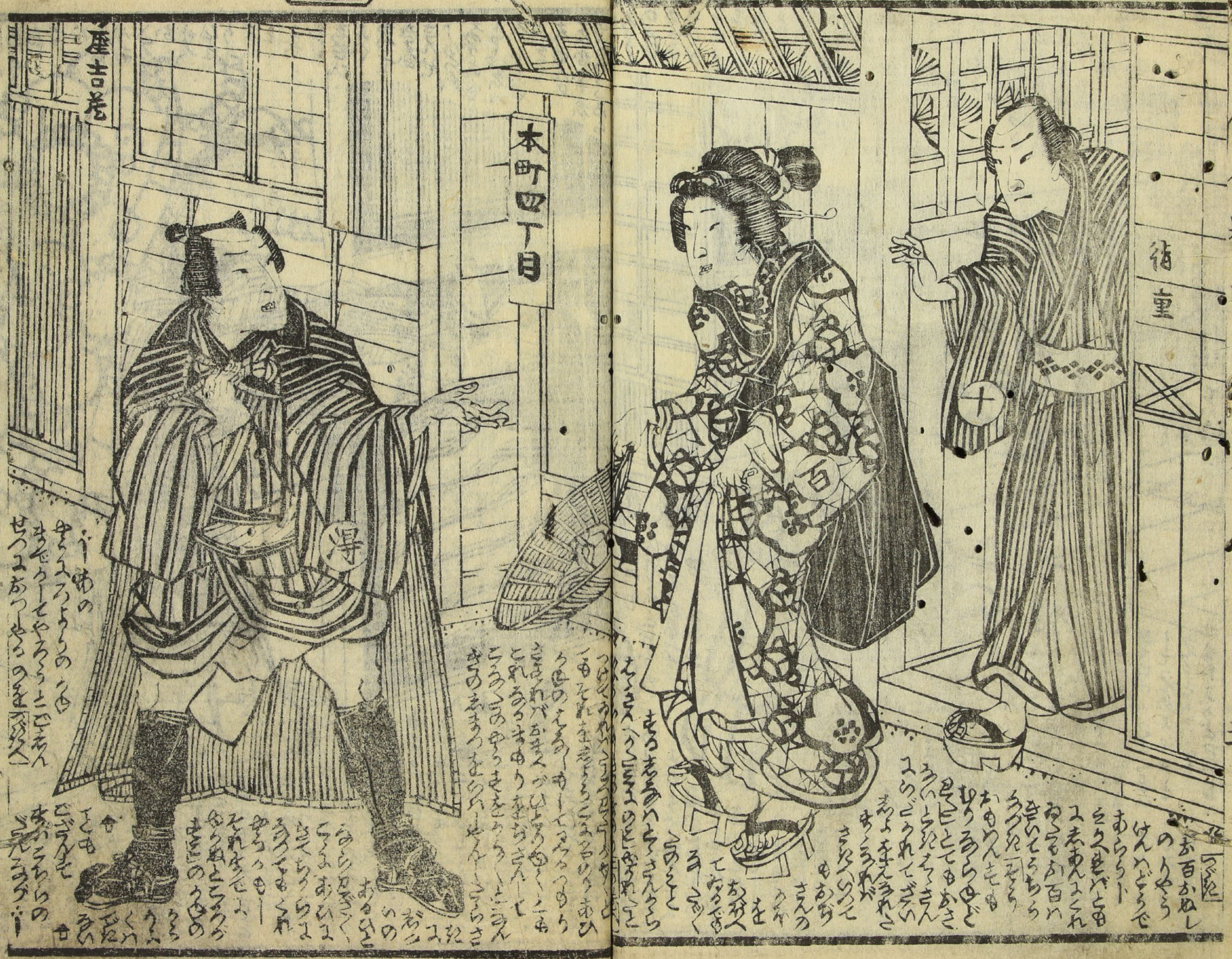
婦多川鶴が岡八幡宮
奉納八幡宮
八幡宮
奉納八幡宮
辰巳の阿百
淂兵衛の一子
癋吉
肴賣新助

五編 のつゞき

[illegible]

[illegible]

高仕入帳


本町四丁目
得
百
十

熊

左ようう
かまを
村

熊

歌川國貞画
爲永春水作

[illegible]

[illegible]

三の

大家 **實母散**

[illegible] 一切の妙薬

[illegible]

中橋南傳馬町一丁目東がわ 千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

四編より九編迄

山々亭有人作

梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知

當春賣出し 此呼の柳蔭月の朝妻殊の外御贔屓 [illegible]

山々亭有人作

錦朝樓芳虎画

為永作

國貞画

二の巻

[illegible]

[illegible]

菊重 [illegible] 因 六 [illegible] 下

為永著作

國貞図画

八幡宮御祭禮
八幡宮御祭禮
御禮
氏子中

明治四年辛未春陽開板標目

厚化粧萬年島田 十九 八編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶巻 十九 二十 廿一編 種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 種彦作 國貞画

童謡妙々車 廿四編 廿五編 種彦作 國貞画

薄俤幼日記 二十編 二十一編 春水作 國貞画

[illegible]葛飾譚 十一編 十二編 種彦作 國貞画

新局九尾傳 十二 十三 十四編 春水作 國貞画

筆海四國聞書 十三編 十四編 國貞画

明鴉墨画裲襠 十六編 十七編 種彦作 國貞画

花封蕾玉章 十編 大尾 種彦作 國貞画

八犬傳犬の双紙 十四編 十五編 柳亭作 國政画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉蔵梓

朝鮮牛肉丸 大包 金二朱 中包 金一朱 小包 銀一匁

對州屋敷 濱崎氏製

春水作 國貞画

井上氏